

香川県香川地区タクシー利用者懇談会における主な発言要旨

白石＞運転者の給料は最低でも22万円程度あれば、運転者は来ると思う。また、加算運賃は、100円は重いと思う、80円が最適かと思う。

利用者を増やすために加算運賃を増額するのはいただけない。消費者の負担感と言うものは常に考えておかなければならない。加算100円は利用者の負担感が大きいと思う。

また、値上げをしても観光客は乗ってもらえると思う。通常のお客さんにも、前は「おつりは良い」と言われるお客さんがいたが、今はキチッと釣り銭を渡すと逆に喜んでもらえる。適正運賃の収受が必要である。

岩崎＞現在はクレジットカード等の支払が増加し、通信費の負担が大きくなっている。また、身障者割引の件数も増えてきており事業者には大きな負担となっている。

冨田＞ほとんどのお客様は、割引された運賃は行政から負担があるものと誤解している。全て会社持ちで、運転者には割引前の運賃で運転者の給与を計算している。

白石＞そのようなお客様には、十分説明しておく必要がある。旅客に対してしっかり説明するのが運転者の仕事であるため、そこはしっかりと説明させるべきである。

橋田＞消費者の立場で発言させていただく。香川県タクシー協同組合には全ての事業者が入っているのか。個人タクシーも少なくなった。

利用するとき、運賃がどれくらいかかるか不安である。思った以上に高いときがある。

定額タクシーは検討していないのか。

様々な外部要因があると思うが、利用者には十分な説明をしていただきたい。特に、道の混雑具合に伴い運賃額が変わるのは制度として理解したが、それはあくまでも消費者からすると外部的な要因でしかないと、料金体系の説明等はしっかり消費者（旅客）に対して行っていただきたい。空港などで、シェア乗車のサービスは勧めていませんか？運転者の高齢化についての対策は？

寺師>タクシー事業者は組合に加入しており、他県に比べ、事業者数は多いが十数台規模の会社が多く、合計台数は少ない。

乗る前に運賃が確定する事前確定運賃制度がありますが、その制度を適用するにはアプリ上でルートを提示し選択されたルートに基づく運賃額を確定させる必要があるため配車アプリの導入が大前提となっています。配車アプリを導入するためには事前の設備投資も必要になり、その点からも全国に比べて香川県では導入できていない状況です。今回の運賃改定を機に設備投資も積極的に行っていくことで新たな運賃も適用をしていきたいと考えています。

安藤>運賃は安い方が良いが、説明を聞いて状況は分かった。香川県は二次交通が重要なので、タクシー事業者には頑張ってもらいたい。観光客にもきちんと説明できる内容であれば、観光客からの理解は得られると思う。

松本>経済団体である商工会議所の立場から申しあげて、運賃の値上げはやむを得ないものと考えている。近年のエネルギー価格の高騰は企業活動に与える影響として非常に大きなものがある。タクシー業界でも燃料として利用するLPガスなどのコストが増加している。昨今日本では、企業物価が9%程度上昇する一方、消費者物価は3%程度の上昇に留まるといった状態が続いている。コスト上昇分を企業努力で吸収している事業者が多くある状況との見方ができ、多くの事業者で十分な価格転嫁ができず、事業者の体力の消耗が心配される。

また、観光振興の側面や公共交通を補完する移動手段という点でタクシーは重要な位置付けにある。近年、人手不足下にあって、ドライバーの確保が事業継続のための課題になっている。今回の改定によってタクシー事業者の収益改善が図られることは、ドライバーの待遇改善や安定的な確保のために、一定の効果があるものと考えている。

天羽>労働者不足や燃料高騰等があるが、公共交通として利用者には丁寧な説明をお願いしたい。

水尾>コロナや燃料高騰の状況があり、厳しい状況にあると思う。コロナ後の新しい生活様式の定着で、鉄道でもビジネス利用が減っていると聞いている。観光利用等も取り込めるよう、アプリ等も活用した利用促進に取り組んで頂ければ良いと思う。